

# I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 68

## Abbey Lincoln【アビー・リンカーン】

～女優としても活躍した名ジャズ・ヴォーカリスト～



Photo : Abbey Lincoln "The Complete 1959-1961" (Le Chant Du Monde)

### Profile

1930年8月6日、米国伊利ノイ州シカゴ生まれ。本名はAnna Marie Wooldridge。ハイ・スクール時代にハウス・メイドとして働く。51年にカリフォルニアに移住し歌手活動を開始。一時ハワイ州に渡った後、再びカリフォルニアに戻って活動。50年代初頭の下積み時代はガビー・リーの名で歌手活動を行っていたが、56年に作詞家ボブ・ラッセルの案で、第16代アメリカ合衆国大統領のエイブラハム・リンカーンにあやかってアビー・リンカーンに改名。同年1stリーダー・アルバム『アフエア』を発表し、映画『女はそれを我慢できない』に出演。57年の2ndアルバム『ザッツ・ヒム!』では、後に夫となるマックス・ローチも参加。59年に代表作のひとつ『アビー・イズ・ブルー』を発表。60年にマックス・ローチのアルバム『ウィ・インシスト』に参加。62年にマックス・ローチと結婚（70年に離婚）。マックス・ローチの影響で公民権運動を支持し、マックス・ローチの実験的なプロパガンダ・ジャズのプロジェクトにも参加。73年にマックス・ローチ・クインテットのメンバーとして来日を果たし、同年アルバム『ピープル・イン・ミー』を発表後、ジャズシーンを離れて劇作家としての活動をスタートする。79年にニューヨークでコンサートを開催し、翌80年にアーチャー・シェップと「ノース・シー・ジャズ・フェスティヴァル」に出演。90年にはスパイク・リー監督の映画『モ'・ベター・ブルース』に出演。90年代以降は積極的に音楽活動を行い、アルバムもリリースした。ビリー・ホリデイを敬愛し、ビリーの後継者と称され、ヴォーカリストとしてだけでなく、女優としても活躍した。2010年8月14日、ニューヨーク・マンハッタンで息を引き取る。享年80歳。

# AL's Great Album

1956年に発表した1stリーダー・アルバム『アフエア』以降、晩年まで約20作のリーダー・アルバムを発表した。夫であったマックス・ローチのアルバムでの名唱も必聴。

1950〜70年代のアビーの名唱を網羅した2枚組ベスト盤



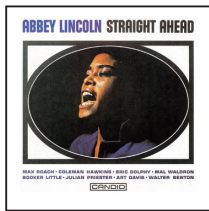
## ザ・ベリー・ベスト・オブ・アビー・リンカーン アビー・リンカーン

(Not Now Music: NOT2CD-780 [Import CD])

アビー・リンカーン (vo)、他

[Disc 1] 1. エイント・ノーバディーズ・ビジネス  
2. クレイジー・ヒー・コールズ・ミー 3. ウッド・アイ・ラヴ・ユー (他、全40曲)

凄腕ミージャンたちがバックに参加したアビーの代表作のひとつ



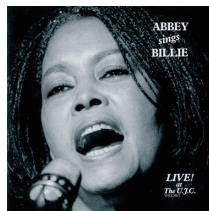
## ストレート・アヘッド アビー・リンカーン

(ウルトラ・ヴァイヴ/SOLID Records: CDSOL-47006)

アビー・リンカーン (vo)、マックス・ローチ (ds)、コールマン・ホーキンス (ts)、エリック・ドルフィー (as)、他

1. ストレート・アヘッド 2. ホエン・マリンドー・シングス 3. イン・ザ・レッド 4. ブルー・モンク 5. レフト・アローン (他、全7曲)

敬愛するビリー・ホリデイの愛唱歌を披露したアビーの傑作ライブ盤



## アビー・シングス・ビリー・ホリデイ Vol.1 アビー・リンカーン

(ウルトラ・ヴァイヴ/SOLID Records: CDSOL-46432)

アビー・リンカーン (vo)、ハロルド・ウィック (ts)、ジェームズ・ウェイドマン (p)、タリク・シャー (b)、他

1. ホット・ア・リトル・ムーンライト・キャン・ドウ 2. 瞳は君ゆえに 3. グルーミー・サンデイ 4. クレイジー・ヒー・コールズ・ミー (他、全10曲)

アビー・リンカーンの初期のナンバーから代表曲、入手困難となっていたナンバー、1950〜70年代に吹き込んだ音源を2枚組で40曲収録。「エイント・ノーバディーズ・ビジネス」「クレイジー・ヒー・コールズ・ミー」「ウッド・アイ・ラヴ・ユー」「ディス・キャン・ビー・ラヴ」「ポーギー」等、アルバム・タイトル通り、正にアビー・リンカーンの究極のベスト盤と言える作品。ブルー調のジャケットに写る若きアビー・リンカーンが美しい。

録音は1961年。翌年アビーと結婚することになるマックス・ローチの他、コールマン・ホーキンス、エリック・ドルフィー、ブッカー・リトル、マル・ウォルドロン、アート・デヴィス等、錚々たるメンバーが参加したアビー・リンカーンの代表作のひとつ。オープニングを飾るタイトル曲「ストレート・アヘッド」や「ブルー・モンク」、ビリー・ホリデイが作詞を手掛けた「レフト・アローン」、「アフリカン・レディ」等、全7曲を熱唱。

1989年にNYで行われたアビー・リンカーンのライブ音源。「ホット・ア・リトル・ムーンライト・キャン・ドウ」「瞳は君ゆえに」「奇妙な果実」「ラヴァー・マン」等、敬愛するビリー・ホリデイの愛唱歌10曲を披露。ハロルド・ウィックのテナーの音色も印象深い。数あるビリーのトリビュート作品の中でも秀逸な1品。本作はVol.1だが、「ギミ・ア・ビッグフット」や「ドント・エクスプレイン」等、全7曲を収録したVol.2も必聴。

## 女優として

アビー・リンカーンは女優として、映画やテレビでも活躍した。1956年に映画『女はそれを我慢できない』に出演し、マリリン・モンローが「紳士は金髪が好き」で着用したドレスを着て主題歌を歌ったのをはじめ、『ナッシング・バット・ア・マン』(1964)、『フォー・ラヴ・オブ・アイヴィ』(1968)、スパイク・リーのジャズ映画で主人公の母親役を演じた『モ・ベター・ブルース』(1990)に出演。テレビ出演は『ザ・ネーム・オブ・ザ・ゲーム』(1968)、『オン・ビーイング・ブラック』(1969)、『ショート・ウォーク・トゥ・デライト』(1972)等がある。

## マックス・ローチとの出会い

アビー・リンカーンは1962年から1970年まで、マックス・ローチと結婚していたことはジャズ界では有名な話。出会いは1957年頃で、その後はマックスのアルバム『ムーン・フェイズド・スターリー・アイド』(1959)、『ウィ・インシスト!』(1960)、『イツ・タイム』(1961)にも参加した。結婚後、マックスを支えながら、女優としても活動し、プライベートではマックスの影響で公民権運動を支持するようになった。離婚後は劇作家として活動し、80年代まで音楽活動が停滞する時期があったが、90年代に入ってから積極的に音楽活動を行なった。

# Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) vol.41

## ~ What Are You Doing The Rest Of Your Life? 【これからの人生】 ~

この曲はミシェル・ルグランにより、1969年のアメリカ映画「ザ・ハッピー・エンディング」の主題歌として作曲され、アラン・バグマンとマリリン・バグマンの夫婦によって作詞された。邦題は「これからの人生」。映画「ザ・ハッピー・エンディング」ではマイケル・ディーズが歌い、アカデミー賞のベスト・オリジナル・ソング部門にノミネートされた。その後も数多くのアーティストに取り上げられ、名スタンダードとして親しまれている。

★この名曲が聴けるお薦めのアルバム

- ビル・エヴァンス『フロム・レフト・トゥ・ライト』
- フランク・シナトラ『サム・ナイス・ソングス』
- 山本剛『ライフ』
- クリス・ボッティ『トゥ・ラヴ・アゲイン』
- ニッキー・パロット『思い出のパリ』